

2022 年度

京都教育大学附属幼稚園

自己評価実施報告書

2022年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価	
A	高いレベルで達成できた
B	達成できた
C	一部達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の園運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 発達の特性に 応じた幼稚園教育の 推進	<p>①新幼稚園教育要領実施に合わせ改訂した本園の「教育課程・全体の計画」をもとに、保育を計画し実践する</p> <p>②3年目となる、本園の独自研究「幼児の生活と情報活動～幼児の遊びや生活を豊かにするICT活用の試み～」に取組み、幼児期におけるICT活用の在り方を探る</p> <p>③保護者との連携を図り、一人ひとりの園児が個性を發揮できる保育を推進するとともに、保護者との信頼関係を構築し、一人一人の特性に応じた支援を行なう。</p>	<p>①本園の教育過程をもとに、毎週各学年の週計画案を作成し、全教員で検討する。その際、幼児の終わりまでに育てほしい10の姿を意識して実施できるようにした。</p> <p>② 教師自身が ICT の教材研究をおこない、遊びを豊かにする ICT の活用の在り方を探りながら保育の中に取り入れる努力をおこなった。そのことにより、心が動く、認識する、想像するなど子どもたちの経験が豊かになった。</p> <p>③コロナウィルス感染防止対策の為に中止していた保育参観や降園時の保護者への伝達などを2学期後半より再開した。そのことにより、こどもの姿を通して、保護者への啓発や信頼関係の構築をすすめている。</p>	A	<p>①大学の附属幼稚園として、質の高い保育を目指すことが大切である</p> <p>②直接体験の大切さを守りつつ、新たに挑戦していく姿勢は素晴らしい。</p> <p>③コロナ禍で中止していた行事を見直し再開するとともに、附属の教育を理解してもらえるように期待する。</p>	<p>引き続き、質の高い保育を目指した取り組みを行う。</p> <p>3年間の研究を振り返りつつ、新たな研究テーマに向けて取り組む。</p> <p>コロナ禍で中止していた参観を再開し、保護者に対して保育の理解を図る。また、育友会との共催行事の在り方についても見直し保護者との連携が取れるようにする</p>
(2) 物的環境、人的環境の工	<p>①昨年度の園舎改築後の新たな環境を活かし、保育の可能性を探る。また園庭改修に伴い、園児の学びを豊かに</p>	<p>①もともと水捌けが悪く、雨の後には、ぬかるみになっていた園庭であるが、昨年度の園舎改修の際に工事車両が乗</p>	A	<p>①園舎も園庭も整備され、心地よくなったが、保護者アンケートの記載に見られるように、防犯に対</p>	<p>警察と連携した防犯訓練の実施や、消防署と連携した避難訓練を行う。また、桃山地区小学</p>

<p>夫・見直し</p>	<p>する園庭の環境作りを目指す。</p> <p>②非常勤講師、特別支援教育支援員などを含め、教職員の支援体制を見直し、教職員全員がチームとなり、よりよい保育を目指す。</p>	<p>り入れたことにより、更に状態が悪くなっていたが、夏休みに園庭改修を行い、水捌けがよくなった。また、これをきっかけとして、園庭が子どもたちの学びの場になるように見直し、第1段階として、循環機能がなく不衛生であった、池の改修をおこなった。また、園庭改修によって土の質が変わり、泥団子作りが出来なくなった園庭に、春休みには山土で築山を作る予定である。</p> <p>②非常勤講師、支援員の配置をその都度見直し、チーム保育を実施した。</p>	<p>する対応も必要なのではないか？けがに対する安全面の配慮も引き続き行っていく必要はある。</p> <p>②4歳児の2グループ制はともにも有効である</p>	<p>校、中学校との連携を図り、合同の訓練実施も検討していく。</p> <p>改組による定員の変化に合わせて柔軟な対応を行うとともに、3、4歳児のグループ制を維持し、幼児のより良い育ちに向けて取り組む。</p>
<p>(3) 幼稚園機能強化に向けた取り組み</p>	<p>①附属桃山小学校と連携強化に向け、教育理念や教育方法の連携を行い、教員間の情報交換を密にし、学びの連続性や互恵性に着目した保育を実践する。</p> <p>②保護者への子育て支援として、スクールカウンセラーと連携し教育相談、少人数のサロン、副園長との子育て談義、多様な懇談などの機会を設ける。また、様々な分野の講師を招き、子育てについての講演会を開催する。</p>	<p>①コロナ禍により、交流の取組はできなかったが、子どもの育ちについて、特に連絡進学の際には連携を密にした。</p> <p>②スクールカウンセラーの先生による教育相談、子育てサロンと子育ての悩みを相談する場をも設けたが、活用される方は、限定していた。発達、音楽、性教育と様々な分野の講師の先生をお招きして開催した教育プラザを対面で実施できたことは保護者支援として有意義であった。</p>	<p>①桃山地区学校園で取り組んできた成果を活かし、小学校との連携を図っていくことに期待する。</p> <p><b>B</b> ②スクールカウンセラーの存在はとても重要なので、スクールカウンセラーの先生を保護者に周知するなどして、活用方法を検討し、保護者支援に役立てることが大切である。</p>	<p>文部科学省が提言している「保幼小の架け橋プログラム」作成のため、第1段階として、小学校との連携を密に行いつつ、架け橋プログラム作成に向けて、本園の教育課程を見直す。</p> <p>スクールカウンセラーによる教育プラザなど、スクールカウンセラーの存在を広く、保護者に周知できるようにする。また、未就園児子育て支援”ことり広場 “での相談も検討する。</p>

	<p>③地域の未就園児の親子に幼稚園の存在を広めるべく、親子で来園し、遊んだり行事に参加したりする機会を幼児教育科と連携して設ける。</p>	<p>③京都教育委大学幼児教育科の先生と連携をとり、大学の授業とタイアップして、未就園児の子育て支援として“ことり広場”を開催した。コロナ禍であり、在園児の弟、妹限定、参加者も1回3組と限定しての取組であり、地域に広げることができなかった。</p>	<p>③2歳児が本当に地域にいない、2号認定を受けて保育所に預ける保護者が増加する傾向がある中、屋外に出てこない2歳児がいることを把握し、いかにサポートしていくかが重要である。地域の幼児施設と連携していくことも必要である。</p>	<p>今年度行えなかった地域に開く子育て支援の在り方を検討し実施する。</p>
--	--	--	---	---

2022年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価	
A	高いレベルで達成できた
B	達成できた
C	一部達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の 重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己 評価 区分	学校関係者評価	改善策
教育研究活動の成果を公表する。	①本園の独自研究を公開する研究発表会（幼児教育を考える協議会）を開催する。  ②地域や全国の教育委員会、その他学校関係者の視察、参観、及び学生の卒業論文の実験、観察などを積極的に受け入れる。	①12月10日(土)に幼児教育を考える協議会を開催し、本園の研究「幼児の生活と情報活動～幼児の遊びを豊かにする ICT 活用～3年次」を全国発信した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、年度当初の予定から変更し、オンライン開催とした。81名の参加があった。  ②京都府幼児教育センターからの参観をはじめ、研修生の参観、卒論学生の観察、インタビューなど受け入れた	A	①附属の使命としてよく頑張っている。引き続き研究を全国に発信してほしい。  ②京都府幼児教育センターの参観は本当に高評価であった。	・引き続き、教育研究活動の成果を、研究協議会や保育学会の場で公表する。
大学と附属学校園とが連携した研究を実施する	①大学の実地教育運営委員会、幼児教育科教員と協働し、教育実習指導及び教職専門実習の在り方の検討や実習評価の改善に取り組む。  ②本学教員を研究協力者として、文部科学省の委託研究「幼児の遊びを豊かにする ICT 活用についての調査研究」に取り組む。	①幼児教育科教員と協働し、実習の在り方の見直しをおこなった。また、教職大学院の実習受け入れについても検討中である。  ②文部科学省の委託研究「幼児の遊びを豊かにする ICT 活用についての調査研究」に取り組んだ。	A	・研究に関して新たな課題に向けての取り組みである。 文部科学省の委託研究の取り組みも素晴らしい。 以前よりも研究における大学との連携が組織的に進んでいるのではないかと。	・引き続き、大学と連携し研究を実施していく。

総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。	総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を選出するなど、幼稚園として協力できる方法を模索する。	総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を選出し、協同実践者を窓口として、園児の発達相談など、学びサポート室との連携を図った。	B	・特記事項なし	・共同実践者を中心として、連携を図る。
業務改善及び教職員の働き方に関する取り組みの推進する	<p>①連絡帳アプリを活用し、園務の効率化、情報化を推進する。に、学校行事や教職員の役割分担を見直し、学校業務の適正化を図る。</p> <p>②園行事や教職員の役割分担を見直し、園業務の適正化を図る。</p>	<p>①紙ベースで配布していたおたより、健康観察等を、連絡帳アプリ（キントーン）の活用をすることで、園務の効率化を図った。</p> <p>②コロナウィルス感染症拡大防止の為、中止、縮小したことをきっかけに、園行事の見直しを図っている。</p>	B	・園務の効率化は重要である。京都市教育委員会においても、各学校園に発信するメールを精選するようになっている	<p>・附属学校園で統一した校務支援システム「ツムギノ」の使用方法を習得し、有効に活用していく。</p> <p>・「ノー残業デイ」を設定し実施する。</p>